

展開例：ネット・ゲームとの付き合い方を考えよう(45分)

【ねらい】

自分のネット・ゲームの使い方を振り返り、ネット・ゲームのより適切な使い方を友だちと話し合うことを通して、依存症にならないように、上手な使い方をする必要があることに気付き、家の方と「我が家のルール」を作ろうとする意欲を高める。

【学習シートの使い方】

・〔ステップ1〕～〔ステップ5〕は授業で、〔ステップ6〕は、家庭で実施する。

※ ネットには、スマートフォンの使用やYouTube等の動画視聴も含む。

時 間	発問例と留意点
【Q1】 5分	<p>1 夢中になって遊んでいるネットの動画やアプリ名ゲーム名等、自由に出し合う。</p> <p>発問例「今、夢中になっているネット（動画）やゲームがある人は書きましょう。また、その理由も書きましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「なぜ夢中になるのか」を言葉にすることで、ネット・ゲームの魅力に改めて気付くことができるようにする。 ◆ アプリやゲーム名等自由に発言させることで、本時への意欲を高める。
【Q2】 10分	<p>2 ネット・ゲームのよい点と悪い点を見出し、共有する。</p> <p>発問例「ネット・ゲームのよい点と悪い点を考えてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ それぞれの考えを共有することで、ネット・ゲームの良い点や悪い点に対する見方を広げる。 ◆ 悪い点は、特に生活リズム・健康・安全と関わっていることに気付くことができるようにする。
【Q3】 10分	<p>3 自分のネット・ゲームの使用時間等の実態を記入し、使用状況を話し合う。</p> <p>発問例「ネット・ゲームを1日のうち、どれくらい使っていますか。平日の使用時間を振り返ってみましょう」 「それは、長いと感じていますか？それとも短いと感じていますか？」 参考①をみて香川県の利用状況と比べてみましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆はじめに、1日の適切な利用時間は、どのくらいだと思うか質問をしておく。 ◆平日ならいつでもよいが、曜日をそろえたり、平均で見たりするなど全体でそろえておくことが望ましい。 ◆スマホやゲームを所持していない児童には、「使っていない場合は、0でいいよ」と声をかける。 ◆【参考①】を紹介し、自分のネット・ゲーム等の使用時間を香川県の子どもと比較し、振り返るように助言する。 <p>また、家庭のルールに関するグラフから、自分の家庭にはルールがあるか問いかける。さらに自ら主体的にルールを考え、家庭で守っている児童がいる場合は称賛する。</p>

<p>【Q4】 10分</p>	<p>4 自分のネット・ゲームの使い方をチェックリストで確認する。</p> <p>発問例「みなさんのネット・ゲームの使い方をチェックしてみましょう。」</p> <p>◆チェックシートで、自分自身のネット・ゲームの使い方をチェックし、自らの生活を見直す機会とする。</p> <p>◆【参考②】を紹介し、ネット・ゲーム依存症は日々の生活習慣の延長で誰にでも起こり得ることを児童が理解するとともに、自身の生活を振り返る中で、適切な使い方や改善の必要性に気付くことができるようにする。</p> <p>注) <u>チェックシートの項目は、児童が自身のネット・ゲームの使い方をふりかえる視点として、YDQをもとに香川県教育委員会が作成したものであり、ゲーム行動症(ゲーム症)であるか否かを診断するものではない。</u></p> <p>注) ゲームを過剰使用する児童を見てみると、楽しいからやっている者ばかりではない。家庭内の虐待、いじめ被害、成績不振などの逆境を体験しているケースは多く、その時期の支えとして、ゲームが本人にとって生きるために必要不可欠なものとなっていることがある。このような現状を理解し、ゲームへの依存傾向がある児童が傷ついたり、周囲から責められたりすることがないように配慮する。</p>
<p>【Q5】 10分</p>	<p>5 ネット・ゲームを適切に使用方法を考え、学習を振り返る。</p> <p>発問例「これからネット・ゲームとどんな付き合い方をすればよいでしょう。」</p> <p>◆適切に使用していく方法を考えるためには、【Q4】の気付きを反映したり、【参考②】の取組みを参考にしたりするのが有効であることを助言する。</p> <p>◆ルールは、制限をかける否定的なものではなく、よりよい生活を築くためにあることを踏まえ、指導に生かす。その際、肯定的な表現になるように助言したり、実態に応じて、下記の文例を示したりする。</p> <p>例)〔目的〕するために〔方法〕する</p> <p>例)自分を律する力を育てるために、時間を決めて使います。</p> <p>例)ズルをしてしまわないために、使う場所はリビングに決めておきます。</p> <p>例)危ない目に合わないために、フィルタリングを設定します。</p> <p>例)自制心を育てるために、使用は〇ギガ以内にします。</p> <p>例)依存にならないために、家族と外出時はゲームをやりません。</p> <p>例)けじめをつけるために、食事の時間は使いません。</p> <p>◆自分の課題が見付けにくい児童には、香川県の児童の実態を紹介し、ルール作りの視点を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【視力の低下】スマホ等を使用するにあたって、22.6%の児童が視力の低下に不安を感じている。 ・【課金トラブル】「オンラインゲームの課金をめぐってトラブルになったことがある」と回答した児童の割合は、令和4年の4.2%から、5.7%に増加している。また、トラブルに遭ったと回答した児童の割合は、中学生や高校生よりも小学生の方が多い。トラブルの内容には課金額が高額になり保護者に注意を受けたというもの、課金が原因で友だちともめごとになったというもの等がある。 <p>(令和6年9.10月実施「スマートフォン等の利用に関する調査」より)</p> <p>〔家に持ち帰る前の留意点〕</p> <p>◆自分が考えたことを、家の人に自分の言葉で説明するように伝える。</p> <p>◆【参考③】を家の人と確認しながら、みんなで守れるルール等を決定し記入するように伝える。</p> <p>◆家の人と一緒に決めたルールが、守れなかったときのルールも決めておくように補足説明する。</p>

【実践後の展開(例)】

- ・長期休業中に入るまでに、記入した学習シートを回収し、実態を把握しておく。
- ・長期休業前の懇談会で、担任から保護者へ「ご家庭で『ステップ6 我が家のルールづくり』に親子でチャレンジしてみてください。」と依頼する。また、現在設定しているルールを確認し、必要があれば子どもの実態に合わせて見直すよう声をかける。
- ・長期休業中に活用し、「がんばりのあしあと」を記録させる。
- ・長期休業後、学習シートをもとに、自分のルール等の守り具合を振り返らせる。実態に応じて、友だちと情報交換し、ルールの改善を図る。

〔指導助言者〕 三光病院 院長 海野 順 香川大学医学部 助教 鈴木 裕美



香川県教育委員会